



島根県 A-8 島根県立矢上高等学校 邑南ヤングアップ  
邑南ヤングアップ!! ~地域と学生をつなぐプロジェクト~



島根県 I-7 島根県立情報科学高等学校 「情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」班  
「情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」で 安来の未来を変える、自分を変える



岡山県 B-4 倉敷翠松高校、津山高専、矢掛高校、岡山大安寺中等教育学校、就実高校、屋久島おおぞら高校、金光学園高校、岡山東商業高校  
白石踊800年の伝統を受け継ぐ会  
白石踊800年の伝統を受け継ぐ



高知県 C-4 高知市立高知商業高等学校 シビエ商品開発・販売促進部  
陸の豊かさを守り続ける ~循環型社会貢献の実践~



岡山県 E-8 岡山県立矢掛高等学校、学校法人就実学園就実高等学校 井原&備前の魅力発掘委員会  
日本資本主義の父“渋沢栄一氏”ゆかりの地で学ぶ 道徳経済の合一



岡山県 F-2 岡山県立倉敷古城池高等学校 ワッショイ! とーかーず Team Children's Cafeteria  
Change the world ~こどもたちのhappyであふれる地域へ~



岡山県 G-2 おかやま山陽高等学校 献血・骨髄バンクチーム  
もう一歩先の啓発活動、「骨髄バンク説明員」資格を取得!



岡山県 I-8 山陽学園高等学校 地歴部  
「市民が解決者!」 海洋ごみ問題解決ヘシビック・テックで挑む



広島県 F-4 広島県立広島観智学園高等学校 てれこみ  
通信業で創る大崎上島



山口県 C-2 宇部フロンティア大学付属香川高等学校 ユネスコ部  
反射材で事故防止! 小物製作とチャリティー・バザー・募金で教育支援!



山口県 F-10 山口県立柳井商工高等学校 まちづくりプロジェクトチーム  
建築技術を生かした巣箱製作と 笠戸島蜂蜜の地域ブランド化の挑戦



徳島県 G-6 徳島県立徳島高等学校 家庭クラブ  
AWA♡とくしま~地元の魅力をマルシェで発信~



徳島県 H-5 徳島県立阿南光高等学校 緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム  
みんなで作ろう2025大阪関西万博ひまわりプロジェクト!



熊本県 J-7 熊本県立熊本高等学校 きくらげ応援隊  
きくらげ応援隊 ~農福連携という新しい農業のカタチ~



大分県 C-8 大分県立大分工業高等学校 DAIKO水車プロジェクト  
水車を活用して防犯灯を照らし通学路の夜道を照らそう!



宮崎県 F-8 宮崎県立飯野高等学校 生活文化科3年 RESCRO



香川県 I-3 大手前丸亀中学・高等学校 広報委員会  
未来につづく「まち」をつくる



香川県 J-8 香川県立三本松高等学校 三高みんなの食堂プロジェクト  
三高みんなの食堂プロジェクト



愛媛県 G-3 愛媛県立松山北高等学校 NPO団体松山北高校 興居島ボランティアチーム  
愛顔グローバル愛Landまつま環境保全プロジェクト



鹿児島県 H-7 鹿児島県立錦江湾高等学校 サイエンス部化学コース  
竹抽出液で化粧品開発 ~竹害から日焼け止めへの転換~



沖縄県 E-6 沖縄県立北部農林高等学校 エコ部  
日本の春は、ここから始まる。 未来へ残そう美ら桜!



# シンポジウム

テーマ：私たちが創る未来

【司会】寺島尚正・川島葵  
 【スペシャルナビゲーター】鎌田實（風に立つライオン基金評議員／諏訪中央病院 名誉院長）  
 【パネリスト】国境なき医師団日本アドミニストレーター 森川光世さん  
 いがた災害ボランティアネットワーク理事長 李 仁鉄（りじんてつ）さん  
 スポーツキャスター／風に立つライオン基金評議員 古田敦也さん  
 一般社団法人BOSAI Edulab代表理事 上田啓瑚（かみだ けいご）さん  
 東日本大震災語り部 菊池のどかさん



2日目の午後は、各界の有識者を招いてのシンポジウム。例年、大変活発な意見交換が行われる、高校生ボランティア・アワードの中でも大切にしている時間なのですが、前日の最後に行われた交流会も奏功したようで、いつにも増して熱の籠もった議論が交わされ、大いに盛り上がりました。司会者もパネリストの皆さんも高校生の熱さに圧倒された一時でした。冒頭、今回のテーマ「私たちが創る未来」についてパネリストのご意見を伺う中で、高校生からも積極的に発言があり、年々この大会の目指す目標に近づいているのが伝わってきました。冒頭、まずはステージ上の大人たちから、自らの高校時代を振り返ってメッセージが送られました。

鎌田／僕は君たちくらいの時に「面白い人生を歩みたい」と考えていました。その中で「1%だけは誰かのためになるようなこと」をしたと考えるようになっていった。そう考えた時に「私たち」の「たち」の部分で「1%誰かのため」とスクラムが組めるようになれば、「私たちの未来」を語るようになるんじゃないかと思えます。森川／高校時代、将来は英語の教師になろうと思っていて、その通り英語の教師になりましたが、ある日、実家に戻った時にふと高校時代の日記を読んだら、「将来農業大学に行ったら途上国に行って農業を教えたい」と書いてあったんです。自分でも忘れていたんですが、今のように途上国支援をするような仕事に就いてみると、その時の思いがどこかに残っていて今に繋がっているのかなと思います。李／私は団塊ジュニアと呼ばれる世代で、親としては理系のエンジニアにしかかっただけなんです。自分では世界史の面白い先生の影響で歴史の道に進みたいと思っていました。ただ職がないということで親と喧嘩しっぱなしでしたが、たまたま家の近くの新潟の大学に進んだら面白い先生がそこにもいらして、だから自分の力で創ったというよりは、周りのご縁の中で創っていただいた人生だなと思います。古田／高校生の頃、プロ野球選手になるとは正直思っていなかった。未来は何が起るか分からない。皆さんが今想像している10年後、20年後は多分間違っています。今日、いろいろな経験をした大人たちがいろんなことを言いますが、それらははっきり言って正解じゃない。自分の感情もおそらく変わります。だからこそ、自分で未来を創るんだという気持ちは大切だし、いろんな局面でへこたれない、諦めないという志を忘れずに持ってってください。上田／高校生の時に、まさか今のような防災の研究を行っているとは思っていませんでした。当時はむしろ環境の方に興味があって、地元環境美化などをやってきましたが、本当に何が正解かは正直わかりません。でも、まずは目の前のことに一所懸命取り組むということと、あとから振り返れば意味のあることだったんだ、とわかると思います。

菊池／自分自身が高校に入学した頃は東日本大震災が起きた直後で、岩手県の沿岸部に住んでいたのが、通学路がなく朝学校に行くことがすごく大変だったし、夢を持ったこともなかったですが、今思うと友達がいからすごく楽しかったと思いますし、沢山の人が自分の人生に関わってくれて、それってすごく幸せなことだったと思います。

「パネリストの皆さんの言葉を聞いて、今思ったことを発言してみてください」と司会の寺島アナから会場に投げかけると、早速手が挙がりました。

これからいろいろな人に出会っていろいろなことを経験して、どう未来が変わっていくのか、これからの未来が楽しみになりました。それと、昨年も手を挙げさせていただいたんですが、皆さんすごく色々な活動をされていて、ぜひ繋がりたいと思ったんですね。それで『47分の1』というプロジェクトを立ち上げて1年間活動して来たんですけど、全国7都道府県で今やっているの、皆さんもメンバーとして一緒にやりたいなと思っていて、皆で繋がったら大きな力になると思うので、是非一緒にやりましょう！（栃木県立学悠館高等学校JRC部 星野綾子さん）

昨年シンポジウムで提案し、その後実際にオンラインでミーティングを重ねてきた「47分の1プロジェクト」のリーダー星野綾子さんが、今年も旗振り役になってくれました。高校生ボランティア・アワード事務局としても、サポートさせていただきながら、大きなムーブメントになることを楽しみにしています。

今回の高校生ボランティア・アワードに出場するにあたって、この二日間で終わるのはもったいないと思います。昨日、皆さんにアイデアをもらって、夜の間に考えて『全国ゴミ拾いリレー』を考えました。北海道から始めて、次の地域にどんどん報告して行って、拾う量を増やしていく。高校生が同じ時期に同じ時間に立ち上がる、これを日本中の同じ地域の方に見てもらおう。ここにいる皆で高校生ボランティアを広く普及していけたらと思います。（初芝立命館高等学校インターアクトクラブ 元山慶祐さん）

冒頭から熱く盛り上がったシンポジウムは、その後、それぞれのパネリストへの質問を中心に進んでいきました。

**Q1: 社会に貢献したい、役に立ちたいという想いで、国際交流やボランティア活動をしています。ご経験を踏まえて、活動を継続し、さらに充実させるための心構えや秘訣があれば、教えてください。**  
 初芝立命館高等学校インターアクト部 岡田奈々愛さん

森川／活動をしていく中で必ずしも思い通りにいかないことがあると思います。国境なき医師団でも、参加したいけど語学ができない、資格がないということがよくあります。私自身、アドミニストレーターとして現場に出ています、人事のことやお金の管理をしなければならない。ただ、元々教員ですからそういうスキルがないから現場に行けないと言われてたんです。で、ないから諦めるのではなくて、そこから会計の勉強をしたら行って、行きたいと言ってから行け



るまで3年かかりました。今後いろんなことに出くわすと思いますが、足りないことを補うにはどうしたらいいのか、そういうことを繰り返して道が開けてくるのではないかと思います。一人で行えることは限られているのでチームワークが大切。言葉や習慣が違うからこそ、皆で話し合っていくことが大切だと思います。

**Q2: 災害ボランティアをしていてやりがいを感じる、大切だと思うことはなんですか。被災者から支援者になって心境の変化はありましたか。**  
 桜花学園高等学校インターアクトクラブの皆さん



李／一年中ずっと災害支援をやっていると、自分がヒーローになった錯覚に陥ることがあります。「俺、頑張ってる」「俺カッコいい」みたいな感覚になることがあって、自分に自信を持つためには必要なことだけど、行き過ぎると、自分と違うやり方の人が自分の邪魔をする敵に見えちゃうんですよ。そうするとチームワークは成立しなくなっちゃう。だから自分は一人の人間なんだということを忘れないことが大切です。それから被災された方と向き合う時に特に大事にしていることがあります。福島の支援の時に、ある村のおじいちゃんから「おら、

いつになったら村さ帰れるんだ?」って言われたんです。そのおじいちゃんはセシウムの半減期を答えて欲しいわけじゃないですよ。応答って「応」と「答」があるんですけど、「答」ばかり考えちゃうと科学的に正しい答えとか、行政の政策としてということばかりになっちゃう。でもその答を自分は持っていない。彼が「いつ帰れるんだ?」と言った言葉の裏には、「早く帰りたい」という思いが隠れてるんだろかな。だから「んだな、じいちゃん、早く帰ってーな。村で見る夕陽はきれいだべな」っていうふうに応えられる感性ってすごく大切だと思うんです。相手の言葉がどういう意味を持って投げかけられているのか、そういうことを常に考えて支援するようにしないと、ボランティアである意味がなくなっちゃうとか、僕らが向き合っているのって家の片付けが多かったりするんですけど、実は「人」なんです。口を見ずに人を見ようっていう言葉があります。つい目に見える泥だらけの家を片付けようと思うあまり、その脇で不安そうに佇んでいるおじいちゃんおばあちゃんの姿が見えなくなっちゃうことがある。泥の先に人がいるんだということを大事にしています。

**Q3: チームの監督であったとき、集団をまとめるうえでどのようなことが一番大切でしたか？ また、限られた時間を活用するとき心がけていることは何ですか？**  
 栃木県立鹿沼高等学校JRC部の皆さん

古田／一番と言われれば、目的、目標を整えるということです。大まかに言えばよりよい社会を作りたいとか、野球で言えばチームとして勝ちたいというのがあります。個人としてはピッチャーで言えば早い球を投げたいと考える人もいれば、チームが勝てばいいと考える人もいるし、極端なことを言えば有名になりたいとか、お金持ちになりたいから野球選手になったという人もいます。でも、まずはチームが勝たない意味がないので、そこをまず



整えないといけないですね。人は二人になれば力が二倍、三人になれば三倍になるかと言うとそうでもなくて、僕らは「欲を整える」という言い方もしましたけど、何がしたいかということと自分自身で理解することが大切です。各々向いている方向が違うものを同じ方向に向かうように整えれば五倍、十倍の大きな力を生むようになるということですね。時間の活用ということで言うと、「即断・即決」という意識を自分の中で持つ方がいいと思います。早ければいいというものでもないですが、今の時代は情報過多だから迷う。人は間違え、失敗もするけれども、そのあとの立ち上がり方が大事。

鎌田／なかなかいないんですよ、こういう人は。寺島／「代打、俺」ですからね。古田／「代打、俺」はなかなか言えないよ。欲の塊でないとね（笑）。皆も欲を持って頑張ってください。

**Q4: 上田さんが高校2年生の時に受けた津市民防災大学について、実際に受けて感じたこと、また上田さんから見て、他の人達に防災の事で1番重要で知っておくべきこと、事前にやっておくべきことはなんですか？**  
 八王子学園八王子高等学校ボランティア部 竹之内美優妃さん

上田／当時は防災より環境に興味があって、ゴミ袋を皆に配って、地域でゴミ拾い活動を広めていたんですよ。それで津市から功労賞をいただきまして、その表彰式の時に偶然いたボランティアのおじいさんから「津市民防災大学っていうのがあるから、是非君に来て欲しい」と声をかけられて、それで行ってみたら、すごい有名な先生方が並んでいて、わかり易く伝えてくださって、感想としては周りは高齢の方ばかりで、仲間もいなかったんです。で、これではダメだと思っていて、どうやって周りに伝えていけばいいのかっていうことを考えているんですが、若い世代だからできること、若い世代だから連携してできることを考えてやって欲しいなと思います。防災については、まずは自分の命を守ることが第一だと思います。まずは自分が十分でないと他人をサポートするのは難しいと思いますので、そのために自分の家は大丈夫か、地域は大丈夫かというふうに関心を持って話をすることが大切です。今はライオン・ユースの一員として「47分の1プロジェクト」をサポートさせていただけたらと思っています。みんなで取り組みれば日本が変わっていくと思います。



ここで、兵庫県立姫路商業高等学校と宮城県農業高等学校が共同で商品開発した災害食の「ふわ姫パン」が紹介されました。お互いの顧問の先生同士が知り合ったことで始まったプロジェクトということですが、大きな震災を経験した2つの地域がそれぞれの特産品を使って災害食を開発するという素晴らしい取り組みです。遠距離でも同じ志を持って一緒に活動ができることを証明してくれました。

鎌田／きっかけはどうあれ、2つの地域の違う高校が協力し合っていて、「私たちが創る未来」を創り始めているというのは大きなモデルになりますよね。



**Q5:沖縄にも、沖縄県の語り部の方がいます。戦争のことを詳しく語ってください。菊池さんが語り部として、気をつけていることはありますか？**

沖縄県立北部農林高等学校エコ部の皆さん

菊池／私が高校生当時は被災直後で、この先どうなるかわかりませんでした。大人の人は復旧に向けて仕事をしていたらしゃった中で、高校生だった自分は危険な作業には従事できませんでした。でも、その中で誰かのためにやりたい、街のために何かしたいという思いがありまして、震災当時のことを話したりとか、今何が必要かということをお話語り部を始めました。気をつけていることは沢山ありますが、当時思った気持ちと今は様々な変化がある中で、すべての気持ちを大事にしています。感謝を忘れないと



ということ、何か悔しいと思った気持ちとか、震災後にモンゴルへ行く機会があったんですけど、言葉が通じない人たちの中に行くと、その時に初めて涙が出たんですね。言葉がわからない所なら、悔しいと思ったこととか、どうしてこんなことになったのかという思いを、言葉がわからないから言ってもいいと思ったら涙が出てきたという思いとか。語ることが仕事ではありますが、それよりも沢山の被災者や支援者をしてくださった人、何かしたいと思ったけどできなかった人、いろいろな人のお話を聞くことも大切にしています。亡くなった人に寄り添うことも大切ですが、今生きている人に寄り添って話をしようと思っています。自分に起きた事実を正確に伝えること、知っていただくことプラス、自分だったらどうするか考えてもらう機会になればと思っています。話は違いますが、高校時代ボクシング部だったんですね。そのボクシング部のコーチが教えてくれた言葉があって、「強くなりたかったら人を大切にしろ」という言葉があって、語り部としても『人を大切にしろ』ということもいつも思っています。

事前に提出してもらった質問から外れますが、高校生の皆さんが普段の活動で感じたやり甲斐や嬉しかった思いなども話してもらいました。

JR路線の利用促進のために「ガチャ旅」というプロジェクトをやっています。小さいお子さんがガチャを引いて喜んでる表情を見てやって良かったって思ったのと、いろんなメディアで取り上げられて、いろんな人に「見たよ。すごいね」って言ってもらえたのは、それが目的ではないですが、誰かに評価されるのはやっぱり嬉しいです。

(福井県立美方高等学校チームガチャ旅 竹村凌一さん)

高校のある地域のお祭でチャリティー綿菓子を販売して、そのお金をカンボジアの小学校に鉄棒を送るというプロジェクトのため

に送ったんですが、綿菓子なので小さい子が沢山買いに来てくれて、保護者の方に「ありがとう」「すごいね」「頑張ってね」って言われて、それがとても嬉しかったし、やって良かったと思いました。(名古屋経済大学市邨高等学校SDGs有志メンバー 伊藤実悠さん)

**Q6:緊急時やトラブル時にいつも通りの判断をするための秘訣やそんな場面で大切にされている事があれば教えてください。**

山口県立柳井商工高等学校/まちづくりプロジェクトチーム 山本悠月さん

李／災害が起きると数日以内に先見隊として現地に入って、ボランティアセンターを立ち上げるサポートをするのが私の一番の仕事なのですが、一ヶ月か二ヶ月、現地と行ったり来たりしながらアドバイスをするんですが、僕のところに話してくるのは大抵トラブルだったり良くない話なんですね。一つ自分の考える癖としてやっているのは、例えばインターネットにネガティブな書き込みがあった時、この人は何故こんな書き込みをするんだろうか、実際に起きていることではなくて、起きている裏側にあるものは何だろう？ と考えるんですね。熱中症で倒れてしまったボランティアさんがいたとして、何が原因でそうなったのかを考える。現場が炎天下で休む場所もない、じゃあテントを一張り立てる。持ってきたのがベトボトル一本しかなかった。一日2リットルくらい必要だと思ったら渡せるお水を準備しようっていうふうには、困りごとの背景とか原因にあたるもの考えるんです。そういう癖をつけるということが一つ。それから、考える力を失わないように、ヤバイ時ほど寝る。ヤバイ時ほど食べる。ヤバイ時ほど笑う。自分の仕事は考えることなんで、考える力を失わないように寝て食べてちゃんと笑う。友達とかと話をすることも大切なことだと思ったりもしています。もう一つは被災されている方を見つめる目をどういう風に持つか。先程言いましたが、自分がヒーローになってしまうと被災された方が「可哀想な人」に見えちゃうんですね。可哀想な人だから守ってあげる。それは違うと思っているんです。先程、堺の方が包丁を届けて喜ばれたとおっしゃっていましたが、すごいいいなと思ったんです。僕らは食べ物がない被災地の人に食べ物を届けちゃうんですね。で、もらって食べるだけ。でも本当は人間は自分で料理して、自分の味付けで自分で食べたいはずなんです。支援を受けて食べるというのは一里塚の一步でしかなくて、ゴールはそこじゃないんですね。お食事はなくて、包丁を届けて自分で料理ができるようにしたというのは、すごくセンスがいいなと思いました。被災者を被災者のままにしない。自立した一人の人間として見ているという意味で、可哀想だから助けるっていう発想にならないように気をつけています。

「最後にこれだけは言わせて欲しいという人はいますか？」という寺島アナウンサーの問い掛けに、一斉に多くの手が挙がりました。最後にお一人だけご紹介しします。

「私たちが創る未来」の「私たち」の中には大人の方々も含まれると思っていて、こういうことを話す時に、若者だけが頑張れっていう空気を感じるんですけど、それは違うと思っていて、僕たちが活動するきっかけとか、良き道筋を示してくれる大人の方々の力があって今僕たちが活動できていると思っているので、将来僕たちが大人になった時に今日のパネリストの方々のように道を示せるようになればいいなと思いました。ありがとうございました。

(関西国際大学OtoOne 田中優さん)

年々熱く盛り上がっている高校生ボランティア・アワードですが、全国大会の二日間だけでなく、継続して、また地域を越えた繋がりができてきています。これからはますます楽しい大会となりました。



熱いシンポジウムになりました！  
パネリストの皆さん  
ありがとうございました！

VOLUNTEER AWARD 2023

## 応援団 パフォーマンス

トップバッターはいつものテツandトモのお二人。いきなりひっぱり上げられた青森県立名久井農業高等学校の皆さんとさだまさしがステージで一緒に盛り上がりました。



声帯の不調でドクターストップがかかり歌えなかった新羅慎二さんは、その分「今年中に約束していた身延山高校に歌いに行くので、それが本当の賞ということで勘弁してください」と表彰式で身延山高校の生徒さんたちにしっかり約束されました。



「皆さんが、日々、誰かのために頑張っている姿を私も嬉しく思うので、ささやかながら歌のプレゼントをお返ししたいと思います。『笑一笑～シャオイーシャオ～』」今年はお一人だけのご参加でしたが、沢山ブースを回って高校生たちと記念写真も撮ってくださったものもいるクローバーZの高城れにさん。

「誰かの役に立つために自分は生まれてきているんだ、と理解できる瞬間が将来きっとあると思います。帰ってからその志を忘れないで頑張ってください」最後にメッセージと共に贈った歌は「いのちの理由」と「風に立つライオン」でした。

## 「さあここからはアンコール！」

閉会式で2日間の大会のプログラムが終了したその瞬間、最後の最後に今年も駆けつけてくださった応援団の皆さんによるパフォーマンスが行われました。



最高の2日間でした！





高校生ボランティア・アワード 2023

# 表彰式 & 閉会式



製品に対する思いや開発途上での苦労話などを熱く語り、「これからもっと工夫を凝らして軽量化や小型化したい」と豊富を語っていただきました。

大分県立大分工業高等学校  
DAIKO水車プロジェクトの皆さん

毎年いろいろなドラマが生まれる高校生ボランティア・アワードですが、今年は最後の表彰式で素晴らしい報告がありました。特別賞の発表が終わろうとしていた正にその時、台風の影響で遅れに遅れた大分県立大分工業高等学校DAIKO水車プロジェクトの皆さんが会場に到着。数日前に特許を取得したばかりという「携帯自立型発電機」を、「一目だけでも皆さんに見ていただきたくて」とステージ上で披露してくれました。街灯の少ない通学路に少しの水力で防犯灯を灯そうと開発を進めてきましたが、改良に改良を加え特許が取れたということで、その喜びと共に報告してくれました。



**アイデア設計賞** 沖縄県立北部農林高等学校  
工コ部  
正賞：トロフィー／副賞：電動アシスト自転車



**カーコンピニ  
倶楽部賞** 神戸市立科学技術高等学校  
空飛ぶ車いす研究会  
正賞：トロフィー／副賞：電動アシスト自転車



**猿田彦珈琲賞** 青森県立名久井農業高等学校  
FLORA HUNTERS AQUA  
正賞：トロフィー／副賞：猿田彦珈琲商品一式



**オーロラ日本語  
奨学金25周年記念  
特別賞** 岡山県立倉敷古城池高等学校  
ワッショイ!とーがーず  
Team Children's Cafeteria  
正賞：賞状&盾  
副賞：Donation \$1,000、ロスご招待(2名)



**ももいろ  
クローバーZ賞** 青森県立柏木農業高等学校  
柏農ねぶた委員会 絵師三銃士  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**新羅慎二賞** 身延山高等学校  
手話コミュニケーション部  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**ANA賞** 兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部  
宮城県農業高等学校 農業経営者クラブ  
正賞：モデルプレーン／副賞：活動支援金5万円



**SOMPOケア賞** 埼玉栄高等学校  
総合探究部  
正賞：トロフィー／副賞：ハーゲンダッツギフト券



**DNP  
大日本印刷賞** 鹿児島県立錦江湾高等学校  
サイエンス部化学コース  
正賞：トロフィー／副賞：honto



**テツandトモ賞** Your English Classmate  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**古田敦也賞** オイスカ浜松国際高等学校  
環境SDGsプロジェクト  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**鎌田實賞** トライ式高等学院  
白ねごグループ  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**DREAM WORLD  
HEALTHCARE  
PROGRAMME賞** 大分県立大分工業高等学校  
DAIKO水車プロジェクト  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**日本航空賞** 山口県立柳井商工高等学校  
まちづくりプロジェクトチーム  
正賞：モデルプレーン／副賞：活動支援金5万円



**ライオンズ  
クラブ賞** 宮城県農業高等学校  
科学部 桜プロジェクトチーム  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**さだまさし賞** 奈良県立商業高等学校  
コミュニティ再生プロジェクト  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**国境なき  
医師団賞** 奈良県立商業高等学校  
桜プロジェクト  
正賞：トロフィー／副賞：活動支援金5万円



**日本赤十字社  
JRC賞** 栃木県立小山西高等学校  
JRC部  
正賞：トロフィー／副賞：赤十字グッズセレクション



**ライオン・コース  
賞** 東京都立園芸高等学校  
定時制農業クラブ  
正賞：小ライオンぬいぐるみ  
副賞：ライオン新聞での活動紹介

この国の20年後、30年後をいい意味で変えていって欲しいと思います

『これをやったことで誰かが喜んでくれるかな?』という気持ちは、僕らの心にとって大切なことだと思います。これから社会に出ていったときにボランティアから離れてしまう人もあるかも知れないけれど、心のどこかにそんな思いを持ち続けていって欲しいと思います。そして、この国の20年後、30年後をいい意味で変えていって欲しいと思います」(さだまさし)

お陰様で、応援団ゲストも含めて19の特別賞を贈ることができました。  
この場をお借りして、ご協力くださった全ての皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



ユース・  
ボランティアの  
皆さん

